

平成 29 年 2 月定例会 一般質問

荒井宏幸 保守市民クラブの荒井宏幸です。通告に従い、分割にて質問します。

初めに、Ⅰ、交流人口の拡大に向けて伺います。

(1)、観光誘客促進施策の強化についてです。

本市の平成 29 年度主な組織改正等についての発表の中で、観光誘客促進施策の強化の記述がありました。さらなる交流人口の拡大に向け、国内外からの誘客を促進し、広域連携等による外国人旅行者施策等の強化を図るため、国際・広域観光担当部長を新設するとのことでした。このことに私は、本市のインバウンド獲得に向けた意気込みを感じ、うれしく思っています。

そこで、アとして、新たな公募部長、国際・広域観光担当部長の選考に当たり、決め手となったこと、期待することについて教えていただきたいと思えます。

次に、イの質問について伺います。

日本政府観光局によりますと、昨年、2016 年の訪日外国人客数は前年より 21.8%ふえ、約 2,403 万 9,000 人と過去最高を記録しました。また、観光庁の調べでは、訪日外国人旅行者の総消費額は前年より 7.8%ふえ、3兆 7,476 億円と、こちらも過去最高でした。政府が掲げた、2020 年に訪日客 4,000 万人、インバウンド消費額 8 兆円の目標に向かい、国内は勢いづいていますが、本市も乗りおくれることなく取り組んでいきたいところです。

今なお東京、大阪、京都などゴールデンルートが中心ではありますが、北海道や岐阜など、地方へも少しずつ広がりを見せているようです。また、リ

ピート客もふえており、訪日客の消費や観光のニーズも多様化しています。そんな中、これから本市が提供できる何が喜ばれるのか、どんな体験を求めているのかを徹底的に調査して把握し、そこから多彩なメニューを周到に用意して、それを効果的に発信できるよう頑張っていたきたいという思いがあります。

そこで、イとして、今回、新たに体制を整え、取り組んでいく上で、インバウンド誘客のために今までにない新しい試みや力を入れていくことなどがあれば教えていただきたいと思います。

次に、ウの質問について伺います。

広域連携によるインバウンド施策の強化も図っていくとのことですが、どこと連携するのも重要なポイントであると思います。具体的にこれから広域連携していこうという地域が決まっているのであれば教えていただきたいと思います。

また、既に本市と誘客連携協定を結んでいる佐渡市との協力についてはどうでしょうか。佐渡市は、世界遺産登録を目指す佐渡金銀山を初め、歴史の舞台となった遺跡の数々、今日まで継承している多くの伝統文化、変化に富む海岸線、神秘的な原生林、国際保護鳥トキが羽ばたく美しい自然に恵まれ、本市にない魅力を多く持っています。佐渡市とタッグを組み、今まで以上に強く本市が推すことにより、これから新しい旅の行き先を求めている訪日客に働きかけ、佐渡に魅力を感じた多くのインバウンドが押し寄せることになれば、本市にも波及効果が発生すると思われれます。

似たような事例が既にあります。毎年8月2日・3日は、新潟市内のホテル

ルは満室になります。毎年のことです。なぜならば、長岡花火に訪れるツアー客の宿が長岡市内とその周辺では全くとれないので、新潟市まで来て宿泊するからです。予約も1年前からいっぱいになっています。このように、世界中から佐渡へ観光客が集まり、宿泊先が確保できなくなったときは、日帰りで本市に戻り、宿泊し、食事をし、買い物をすることなどが期待できます。

そのようなことで、広域連携の候補となる地域の件と、佐渡市との連携強化について見解を伺います。

次にエ、インバウンド誘客に最大の効果が期待されるクルーズ船誘致について伺います。

私はこれまで、交流人口の拡大に向けていろいろな角度から質問してきましたが、今回はついにクルーズ船誘致についてです。クルーズ客船は21世紀最大の観光商品と国土交通省が明言するほど、国も力を入れて取り組んでいる施策です。

今回、国際・広域観光課にそらうみ誘客推進室を新設し、クルーズ客船の誘致を初め、港湾、空港の活性化を含めた一体的な本市への誘客促進に取り組むとのことですが、これはまさにタイムリーであり、クルーズ客船の寄港がふえるように頑張っていたいただきたいと思います。

昨年、新潟東港に7万5,000トンの客船、コスタ・ビクトリアが入港したことは記憶に新しいところですが、さらに大型のクルーズ船の誘致に期待が膨らみます。世界最大の大型客船、ハーモニー・オブ・ザ・シーズは何と22万7,000トンで、乗客定員は5,479人、さらに乗組員が2,100人乗船します。つまり1隻に約7,500人もの人が乗ってやってくる。まるで村や町が

まるごと港に訪れるようなスケールの大きい話です。観光客の消費に加えて、入港料，着岸使用料，その他の税，給油，そして何千人分もの食料や水などの収入が大いに期待できると思われます。

ことし1月，我が保守市民クラブの視察で，横浜，神戸を抜いてクルーズ船の寄港回数全国1位・2位となっている博多，長崎を訪問してきました。今は日中韓など3カ国を周遊するショートクルーズが人気で，中国発着の船が博多港での9割を占めているそうです。やはり九州西側は地理的に近いということで，有利なことが大きいと聞きました。また，港も広く，同時に何隻も着岸できるように岸壁が整備されていますが，さらに客船の増加や大型化に対応するため，航路の拡幅や岸壁の延伸を図り，受け入れ環境の強化を進めていました。

博多港を有する福岡市の取り組みは，日本一というだけあり壮大な話ですが，世界的にクルーズ船人気が飛躍的に伸びている今，海に囲まれた日本の各都市が誘致に名乗りを上げています。しかも，全国津々浦々に世界遺産があり，アクセス容易な寄港地は非常に有利です。しかし，福岡市で私がレポート客について質問した際に担当者から返ってきた答えは，意外にもクルーズ船のレポートは多くないというものでした。これは新しい旅先を探しているということであり，本市にもチャンスはあるわけです。

旅行会社がつくるクルーズ船の旅のパンフレット等を眺めていますと，豪華な船旅が美しい写真とともに紹介されています。いろいろなツアー商品の中から選択する上で重視することは何か。価格や日数，船内をどれだけ快適に過ごせるかという施設面も重要ですが，どこをめぐり，寄港地ではどれほ

どすばらしい観光や体験が用意されているかということが旅の決め手となるのではないかと思います。本市においても、選ばれる、魅力ある観光の研究を進める必要を感じます。

インバウンド誘客に最大の効果が期待されるクルーズ船誘致は、本市でも少しずつですが実績が出てきています。来月には、過去最大の10万トンのクルーズ客船、セレブリティ・ミレニアムの寄港も予定されています。

そこで、エとして、本市がこれから誘致するに当たり、ハード、ソフト両面における課題と、それをこれからどのようにして克服して誘致につなげていくか、決意を伺います。

○議長（高橋三義） 篠田市長。

〔篠田 昭市長 登壇〕

◎市長（篠田昭） 荒井宏幸議員の御質問にお答えします。

交流人口の拡大についてです。

観光誘客促進施策の強化のうち、新たな公募部長の選考の決め手と、期待することについて申し上げます。

本市にとって、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、インバウンドを含めた交流人口の拡大を図る絶好の機会となることから、本市独自の魅力を生かした交流を促進するために、外国人の誘客促進に向けた海外セールスや受け入れ環境の充実、クルーズ船の誘致推進に今まで以上に重点的に取り組んでいきます。

その中で、新設する国際・広域観光担当部長に登用予定の笠原秀紀氏については、大手旅行会社から現在、新潟観光コンベンション協会に出向で来ら

れています。これまでも国内外から新潟への観光客誘客に取り組み、国内においては、北陸新幹線の金沢開業など他の地域に注目が集まる中、本市と定期航空路で結ばれている都市からの誘客において、創意工夫のもと成果を上げられました。また、国外からの誘客においても、海外赴任の経験があり、訪日外国人観光客の動向に精通していることから、広域的な連携の中で本市の魅力を発信することで外国人観光客の拡大につなげるなど、実績を上げておられますので、即戦力としての活躍が期待できます。

交流人口の拡大については、本市だけでなく、観光コンベンション協会や関係諸団体とも一体となった取り組みが欠かせないことから、笠原氏のこれまでの人脈や豊富な知識、経験を生かし、リーダーとして十分に力を発揮していただけると期待しています。

○議長（高橋三義） 斎藤観光・国際交流部長。

〔斎藤博子観光・国際交流部長 登壇〕

◎観光・国際交流部長（斎藤博子） インバウンド誘客の新しい試みや、力を入れていくことについてお答えします。

本市では、新潟空港と航空路で結ばれている中国、韓国、ロシアの諸都市のほか、日本への関心が高い台湾、香港、シンガポールにおいて、現地の旅行エージェントに対するセールスや、各国で行われる観光展に新潟県や市内観光事業者とともに出展し、本市への誘客に取り組んでいます。

また、ガストロノミーツーリズムの構築に向けて、今年度JR東日本と連携し実施した農業体験ツアーを継続実施するとともに、昨年引き続き市内で運行されるレストランバスを活用したプロモーションを予定しているほ

か、個人旅行者向けのレンタカーを活用した周遊ルートの構築に向け、関連事業者や自治体と協議を進めています。

さらに、LCCを活用した成田—新潟間の商品開発に伴って、台湾のバス事業者と予約システムの相互利用を開始したウィラーグループとの連携により台湾からの誘客促進を図るなど、魅力ある観光ルートづくりを進め、交流人口拡大につなげます。

次に、広域連携によるインバウンド施策の強化と、佐渡市とのさらなる協力についてです。

本市では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会時における、地方で滞在し観光する、そして東京で競技を観戦していただくという、地方プラス東京、新潟プラス東京の確立に向け、JR東日本管内の新幹線沿線自治体で構成された東日本連携・創生フォーラムにおいて、広域観光周遊ルートを検討しています。

このほか、東アジア文化都市でつながる京都市、奈良市のほか、北前船の寄港地や、本市ゆかりの建築家であり、新潟市美術館の設計者である前川國男氏の作品で結ばれた自治体などとの、テーマ性を持った新たな広域連携の取り組みも始めています。

また、近隣県では会津若松市や鶴岡市、県内都市では佐渡市や燕三条地域などとの連携により、海外から旅行エージェントやメディアを招聘し、ツアー造成の促進や海外への情報発信に取り組んでいます。特に佐渡市との連携については、議員お話しのとおり、本市における交流人口の拡大において大変重要と認識しています。トキめき佐渡・にいがた観光圏事業や、国内外に

おける共同での誘客セールスのほか、ことし1月には佐渡金銀山の世界遺産登録に向けた講演会を開催するなど、佐渡市と一体となった取り組みを展開しています。今後も引き続き緊密な連携を図っていきます。

○議長（高橋三義） 大勝都市政策部長。

〔大勝孝雄都市政策部長 登壇〕

◎都市政策部長（大勝孝雄） インバウンド誘客に最大の効果が期待されるクルーズ船誘致についてお答えします。

現在、国内においてクルーズ客船の寄港が増加している九州地方の港湾は、地理的に中国と近く、日程が組みやすい地域からの入港が多くを占めており、その多くは、新潟港に寄港できない大型客船が利用されています。

これまで、新潟港に寄港可能なクルーズ客船は、西港では5万トン級の飛鳥Ⅱが最大でしたが、今年度、港湾管理者である県が東港の埠頭を整備し、17万トン級までの大型クルーズ客船の寄港に対応できるようになりました。

クルーズ客船のさらなる寄港増加のためには、日本海側各港との連携や、県、聖籠町を初めとする受入協議会の活動に加え、市民によるおもてなしなど、寄港地としての人々を引きつける魅力を高め、発信することのほか、インバウンドのみならずアウトバウンドの喚起も重要であると考えています。

また、本市としては、町なかに近く、観光振興や交流促進の面からより優位性の高い西港をクルーズ客船の寄港地として活用すべきと考えており、西港における受け入れ態勢の強化を関係機関に働きかけていきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（高橋三義） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 新しい部長，そして新しい体制に大いに期待しています。そして，いろいろな連携が多く組まれているということで，こちらについてもぜひ成果が上がるように頑張っていたきたいと思っています。

また，クルーズ船ですが，まさに部長が言われたとおり，日本海側の連携がこれから本当に大事になってくるとと思っています。外国から日本に来るクルーズ船に乗ってくるお客さんの数が，昨年ですと200万人近い人数になっていて，対前年比で約8割近い増加率ということです。特に太平洋側，先ほどの九州を出て，神戸，横浜もあることに加えて，富士山を持つ清水港が最近非常に元気があります。これをこちらの日本海側に呼び込むために，ますますそういった連携が必要になってくるとしていますので，一層の連携強化を推進していただきたいと思います。

次に（２），プレミアムフライデーを活用した国内旅行者向け施策についてです。

毎月最終金曜日の終業を午後3時とするプレミアムフライデーが，先月2月24日，金曜日から始まりました。働き方改革の一環としても期待され，新たな個人消費を喚起し，低迷する内需を強化する，官民挙げての取り組みです。東京では明るいうちから乾杯しているビジネスマンや皇居周辺をランニングする人たちのニュースを見ました。新潟市内でも万代周辺の盛り上がりなどが報道されていきました。ただ，早期終業ができたのは大企業などの少数派であり，実際に浸透するのはなかなか難しいとの見方も一方ではあるよ

うです。

それでも、今までいなかった 2.5 連休をとれる人がふえると考えるならば、国内観光の活性化による消費拡大に期待が寄せられます。東京圏の人が午後 3 時に仕事が終わりを、午後 4 時台の新幹線に乗れば、午後 6 時台に新潟へ到着します。その後、ゆっくりと新潟のおいしい食事やお酒を楽しむことができます。旅行で来た人も地元の人たちもみんな町へ出て、活気あふれる新潟の夜を盛り上げていけたら楽しいと思います。

居酒屋の全国大会である居酒屋甲子園では、昨年、一昨年と 2 年連続で新潟市内のお店が日本一に輝いています。それも同じお店ではなく、全くタイプの違う別のお店がです。いかに新潟の居酒屋、飲食店のレベルが高いかわかります。料理も酒もおいしく、居心地もいい店が軒を連ねる新潟の魅力をこの機会に広め、呼び込みたいところです。

プレミアムフライデーは、お金をかけていない仕掛けがすぐれているとも思います。本市でも各店の協力により、一品サービスや割引サービスなどで新潟のプレミアムフライデーを盛り上げ、SNS にアップし拡散してもらうなどして活性化に結びつけたいと考えます。土日は温泉に入ったり、レストランバスに乗ったり、ミズベリング信濃川やすらぎ堤に行ったりとおのの楽しんでもらい、最終週末はイベントが組まれるよう調整し、発信もしたいです。安定した財源の確保のために、交流人口の拡大にはますます貪欲に取り組まなければならないと思います。

プレミアムフライデーはまだ始まったばかりですが、これをチャンスと捉

え、東京圏または近県からの旅行者をほかではなく本市に呼び込むための前向きな取り組みをぜひ御検討いただきたいと思いますが、見解を伺います。

○議長（高橋三義） 斎藤観光・国際交流部長。

〔斎藤博子観光・国際交流部長 登壇〕

◎観光・国際交流部長（斎藤博子） プレミアムフライデーを活用した国内旅行者向け施策についてです。

プレミアムフライデーは、経済産業省や経済団体連合会などが連携し、賛同企業が終業時間の前倒しなどを通じて月末金曜日の早帰りを奨励し、働き方の見直しと消費マインドの向上による個人消費を喚起することが狙いとなっています。

民間が事前に行ったアンケート調査の結果によりますと、プレミアムフライデーの過ごし方は、自宅で過ごす、あるいは家族で過ごすことが上位を占めており、次いで旅行、外食、スポーツ、娯楽などのサービス消費に関する項目が多い回答となっています。

早く帰ることによって時間の余裕が生まれることは、旅行への意欲を高める一因となるのではないかと考えていますが、プレミアムフライデーの取り組みは始まったばかりですので、今後の普及状況や効果も見ながら、民間の取り組みなどと連携し、本市の魅力である食や酒の楽しみ方や、首都圏からのアクセスのよさなどの地理的優位性をセールスポイントに誘客活動に取り組んでいきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（高橋三義） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 部長が言われたとおり、まだ始まったばかりということで、これからという部分が多いのですが、ぜひ交流人口拡大に向けて研究を重ね、取り組んでいただければと思います。

次に（３）、水と土の芸術祭 2018 についてです。

本市が 2018 年に開催を予定する水と土の芸術祭 2018 の実行委員会の設立総会が去る 1 月 26 日に開かれたと新潟日報で報じられ、来年 7 月からの開催が事実上、市民に知らされた形となりました。さきの 12 月定例会の文教経済常任委員会では、水と土の芸術祭の市民意見の募集結果が、意見者数 116 名中、賛成者 110 名と、圧倒的賛成多数をもって第 4 回目の開催にかじを切ったとの説明がありました。

我が保守市民クラブでは、ホームページや市報以外では、自治協議会を中心とした狭い範囲での少ない意見収集の中での賛成意見を判断基準として開催に踏み切るのはいかがなものかと意見を申し上げます。これまで第 1 回から第 3 回までの開催の結果、文化、芸術における受賞の数々や、東アジア文化都市の日本開催都市に選ばれたことなど、外部から評価を受けた成果も多々あるようです。しかしその一方で、来場者の満足度が前回から下がったとも伺っています。来場者の半数以上を占める市民の厳しい感想を真摯に受けとめなければ、本当の意味での承認は得られず、シビックプライドの醸成にもつながらないと思われまます。

前回、第 3 回目の水と土の芸術祭 2015 の実績を見てもみますと、来場者数

が約 77 万 5,000 人、経済波及効果は約 22 億 8,200 万円で、いずれも過去 2 回より増加しており、数字上の成果は見られますが、ここでいう経済波及効果はどんなことがあったのでしょうか、把握していらしたら教えていただきたいと思います。

また、次回は潟に加え、砂丘列や港も会場として予定されており、その着眼には興味を引かれるところもあります。本当に交流人口がふえて、あらゆる業界でも経済波及効果が実感できるといいのですが、市民に理解されるような新しい取り組みはあるのでしょうか、見解を伺います。

○議長（高橋三義） 山口文化スポーツ部長。

〔山口誠二文化スポーツ部長 登壇〕

◎文化スポーツ部長（山口誠二） 水と土の芸術祭 2018 についてです。

前回の水と土の芸術祭 2015 の経済波及効果については、実行委員会が支出した直接効果に加え、来場者による消費支出をアンケート結果から総合し、専門機関から算定していただきました。具体的には、来訪者が滞在する宿泊施設や飲食店、各地に点在する作品をめぐるための移動手段など、さまざまな分野に効果があったものとされています。

次回の芸術祭は、オリンピック文化プログラムの主要事業と位置づけ、水と土の芸術祭の最大の強みである市民プロジェクトをさらに発展させるとともに、障がい者アートなど福祉分野との連携を検討するほか、砂丘列や港など水と土を象徴する会場を活用し、地域の伝統芸能や豊かな食文化など、本市の多様な魅力を総合的に発信することとしています。

また、来年度整備を行う万代島旧水揚場跡地などの活用により、開港 150

周年の盛り上げやにぎわいの創出，港の活性化につなげるなど，多くの方々から交流人口の拡大や経済波及効果を実感していただけるよう取り組んでいきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（高橋三義） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 専門機関の算定が少しわかりにくい部分ではありますが，開催する以上は，ぜひ外から人が集まる芸術祭となるようお願い申し上げます。

次に2，本市の老朽化した構造物についてです。

本市におけるインフラや建造物の中には，経済成長期に建設され，半世紀以上となるものも多く存在しています。耐震工事，改修・補修工事などで長寿命化を図っているところも多いと認識しています。

（1），北山跨線橋について。

去る2月8日の新潟日報にて，県内にある跨線橋60カ所のうち，約5割が老朽化により早期の措置が必要と，国土交通省などの点検，診断の実施で明らかになったと報じられていました。診断は4区分に分かれ，最も危険な，緊急に措置を講ずべきとされる場所はなかったものの，次の早期に措置を講ずべきは28カ所あり，全体の47%になっています。その次の予防保全の観点から措置が望ましいは31カ所あり，最もよいとされる機能に支障が生じていないは1カ所だけでした。早期に措置を講ずべきとされた跨線橋の大半は1960年代，1970年代に建設されており，老朽化に対し，国や自治体が今後，修繕計画を策定していくとなっています。

本市が管理者となっている跨線橋はそのうち3カ所あるとのことですが、カラー写真で新聞記事に掲載されていた北山跨線橋は、江南区、東区、中央区の分岐点に接続する交通の要衝であり、近年の周辺環境の変化に伴い、交通量もふえています。北山跨線橋から東へ1キロメートルほどの日本海東北自動車道新潟東スマートインターチェンジは昨年3月に開通しました。そこから南へ2キロメートルほど行きますと新潟市中央卸売市場があります。また、北山跨線橋を反対方向の西へ2キロメートルほど進みますと亀田バイパス姥ヶ山インターチェンジがあり、近くにはスーパーセンタームサシやイオンモール新潟南など大型商業施設があり、さらに西へはハードオフエコスタジアム新潟、デンカビッグスワンスタジアム、市民病院などに通じており、平日も休日も、早朝から終日、多くの車両が通過しています。将来、鳥屋野潟南部の開発が進めば、さらに交通量は増加するものと思われれます。

北山跨線橋の下には信越本線が通り、仮に落下などが起きれば、複合的な大きな被害につながります。そのこともあり、地域にとって重要なこの跨線橋に、地元からは心配する声も受けています。定期的な補修工事が行われているようにも見受けられますが、今後講ずべき措置についてはどのようにお考えでしょうか、見解をお伺いします。

続きまして、(2)、鳥屋野球場、小針球場についてです。

本市所有の両野球場は、長年にわたり学童から高齢者まで幅広い年齢層の試合の舞台として熱戦を繰り広げ、多くの市民から親しまれている球場です。

鳥屋野運動公園野球場は、第19回新潟国体開催に合わせ、前年の1963年に竣工、ことし54年目を迎えます。2009年に県立野球場であるハードオ

フエコスタジアム新潟が竣工するまでは、新潟県を代表する野球場として、プロ野球の公式戦や全国高校野球選手権新潟大会の決勝戦なども行われていました。しかしながら、現在は老朽化が著しい状態となっています。1塁側、3塁側両方のポール際付近のメインスタンド席の一部と外野スタンド全席が、安全上の理由で立入禁止となっています。また、駐車場も収容台数が少なく、野球関係者から何とかしてほしいという声も多くいただいています。それでも8,000人から9,000人を収容できる大きな球場であり、年間を通じ、多くの大会会場などとして利用されています。

また、小針野球場は、老朽化し廃止となった白山球場のかわりとして1970年に竣工し、ことしで47年目を迎えます。鳥屋野球場と同様に老朽化が著しい状況であり、駐車場も収容台数が少ないことに加え、周辺が住宅地であるため、近年は硬式ボールを使用する高校野球の試合は行われていません。しかしながら、軟式野球の大会には十分な施設であり、今も多くの市民に利用されています。

本市としては、合併建設計画により2011年、西区にみどりと森の運動公園野球場、2013年には南区に白根野球場が竣工し、広く利用されていますが、市の中心部から比較的近い場所にある鳥屋野、小針両球場は便利で使いやすいと根強い人気があります。鳥屋野、小針両球場は、私を含め、多くの人にとって昔からの思い出のある野球場ではありますが、著しい老朽化の状態です。このまま使用し続けて大丈夫なのかという懸念もあります。野球場は必要ではありますが、どうすることが将来のためによい選択なのか、議論が必要と考えます。

全国的に、子供の野球人口減少は少子化の3倍の勢いで進行していると言われていています。一方で、超高齢化社会を反映し、還暦野球、古希野球など高齢者の大会は盛んです。全国一の参加チーム数を誇る本市の早起き野球大会でも、昨年から、壮年の部の参加資格が40歳から45歳に引き上げられました。昔と比べて今の40歳は若いからの理由ですが、野球を通じ、市民が元気になることは喜ばしいことです。野球インフラを整備することで、健康寿命の延伸、地域の活性化など多くの効果が期待されますが、それには予算も時間も合意も必要となります。老朽化が進む本市所有の両野球場の今後の方向性について、決断の時期は近づいているのではないかと思われますが、いかがでしょうか、見解を伺います。

○議長（高橋三義） 大沢土木部長。

〔大沢藤雄土木部長 登壇〕

◎土木部長（大沢藤雄） 本市の老朽化した構造物についてのうち、北山跨線橋についてお答えします。

本市の橋梁の維持管理については、道路ネットワークの安全性と信頼性の確保を最優先とし、予防的な維持、補修による長寿命化やライフサイクルコストの低減、そして予算の平準化を図ることを目的に策定しています新潟市橋梁長寿命化修繕計画に基づいて、効果的、効率的な維持管理に努めています。

御質問の北山跨線橋は、緊急輸送道路である主要地方道新潟新津線と新潟港横越線、通称赤道を結ぶ市道嘉瀬蔵岡線4号の、JR信越本線にかかる橋長約236メートルの重要な跨線橋です。建設から45年が経過し、老朽化が

進行していることから、長寿命化修繕計画に基づいて平成 25 年度に工事着手しています。今年度末の進捗状況は、延長割合で約 92%を予定しており、全ての修繕を平成 30 年度末までに完了する計画です。

今後も厳しい財政状況を踏まえ、安心、安全な道路交通を確保するため、引き続き関係機関と協議しながら計画的、効率的な維持管理に取り組んでいきます。

○議長（高橋三義） 山口文化スポーツ部長。

〔山口誠二文化スポーツ部長 登壇〕

◎文化スポーツ部長（山口誠二） 鳥屋野球場、小針球場についてです。

鳥屋野球場は硬式野球が可能であり、全国規模の大会が開催されています。また、小針球場は、軟式野球を中心に多くの皆様から利用されています。

議員御指摘のとおり、両施設とも竣工後約 50 年が経過し老朽化が進んでいることや、駐車場の収容台数が少ないこと、周辺の宅地化が進んだことなどにより、利用者ニーズへの対応が困難になってきていることが課題となっています。

本市は特に学童から高齢者まで幅広い年齢層にわたり野球熱の高い地域であり、これまで西区においてはみどりと森の運動公園野球場を、南区においては白根野球場を整備してきたところです。このような状況を踏まえ、さらなる野球人口の拡大、交流にも資するよう、野球関係者や地域住民などから御意見を聞きながら今後の方向性について検討していきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（高橋三義） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 北山跨線橋について、しっかりと計画され、平成30年末までに安全が確保されるということで、まずは安心です。交通量も大変多いところですので、周辺の道路整備というところも今後いろいろ研究させていただければと思っています。

そして、鳥屋野球場、小針球場についてですが、ことしは秋に早起き野球の全国大会もあるということで、両球場とも会場として使われることになっています。そういった意味で、これからどういう形でやっていくかというのは、いろいろな関係者の皆様と話し合っ進めていかなければならないと思っています。いずれにしても、使用する選手の皆さん、あるいは地域の皆さん、指導者の皆さんの意見を聞きながら、みんなが納得する形でいけるように、議論を始める時期ではないかというところです。ぜひとも前向きな取り組みをお願いしたいと思います。

最後の質問となりますが、3、持続可能なバス交通についてです。

（1）、青山バス停について。

おとし9月の新バスシステム開始とともに、西新潟方面の結節点として青山バス停でのバスの発着が始まりました。その後、冬場の仮設待合所を設置するなど、改善を図りながら現在に至っているわけですが、利用者にとってのバス待ち環境は、まだ満足のいく状態にはなっていないと思われま

そこで伺いますが、そもそもこの青山結節点は暫定的な供用という認識もありますが、いつまでこの場所を使用するのでしょうか、今後の見通し

を伺います。

次に（２）、シニア半わりについてです。

昨年９月から、高齢者のバス利用促進とお出かけによる健康寿命の延伸を目的に始まったシニア半わりはとても好評であり、予想を上回る反響で、利用者数も増加しています。現在も、シニア半わりを楽しみに、65歳の誕生日を心待ちにしていたアクティブシニアの方々が毎日数多く申し込みをされているそうです。

超高齢化が進む本市にあって、シニア半わりは今後なくてはならない、ますます必要とされる制度となり、市長が言われるとおり、シニア半わりは持続可能な制度に進化させなければならないと思われまます。

一方で、利用者が増加するのに比例して市の負担も増加していくと思われまます。事業者には過度な負担はかからないのか、それを踏まえた上でどのようにしてシニア半わり制度を維持、継続していくのか、見解を伺います。

○議長（高橋三義） 大勝都市政策部長。

〔大勝孝雄都市政策部長 登壇〕

◎都市政策部長（大勝孝雄） 持続可能なバス交通についてお答えします。

初めに、青山バス停についてです。

青山地区の交通結節点は、BRT第1期区間の運行事業者選定の際、提案者である新潟交通より、運行区間について、新潟駅から白山駅までの区間を青山まで延伸するほうが路線の集約という点から有効であるとの提案を受け、設置することとしたものです。

この結節点については、当初より検討を進めていました新潟駅、市役所、

白山駅の交通結節点とは異なり、新潟交通からの提案をもとに、回送路を含め、既存の道路空間を活用した暫定的な形態でスタートしました。開業以降は、バス利用者の御意見をお聞きしながら、ベンチや仮設の待合所の設置のほか、一般交通などの周辺環境にも配慮しながら軽微な道路改良などを行い、利便性を高めてきました。

来年度には、具体的な整備の方向性について、路線の配置や交通流動、バス運行のさらなる効率化や利用者の利便性といった観点を踏まえながら検討を行う予定としています。その結果を踏まえ、道路管理者や交通管理者、運行事業者などの関係者と協議を進め、できる限り早期の改善、実現に向けて取り組んでいきます。

次に、シニア半わりについてお答えします。

高齢者を対象にバス運賃を半額とするシニア半わりは、バス利用を促進することで外出機会を拡大し、多く歩くことによる健康寿命の延伸や医療費の抑制などを目的に昨年9月より本格導入し、ことし1月末時点で2万9,000人の方から御参加をいただいています。

シニア半わりにさらに多くの高齢者から御参加いただけるよう、手続方法や適用範囲などについて、皆様からの御意見を踏まえ、新潟交通を初めとするバス事業者と連携しながら課題整理を進めています。また、本事業への参加者が増加していくことで、消費活動による町なかの活性化などの効果も期待され、持続可能な公共交通体系の構築に向けた土台づくりが図られることから、引き続き交通事業者とも密接に連携、協力し、その効果や利用状況の分析を行いながら、本事業を将来にわたって持続する制度に進化させていき

ます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（高橋三義） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 青山結節点については早期に改善を図っていくということで、利用者にとって使い勝手のいい、ストレスを感じることのない結節点等へ向けて、引き続き協議を進めていっていただきたいと思っています。

また、シニア半わりについて、持続可能な制度に向けてやっていくということですが、先ほど質問のところでも申し上げたとおり、これから予想以上に高齢化が進み、利用者が大いにふえ、そしてまた町が活性化したり、高齢者の皆様が元気になるのは非常にいいことですが、そうした中で、予算的な面で逼迫してくるとか、想定外のことがあったときは速やかに協議し、対応をお願いしたいと思います。

以上お願い申し上げまして、質問を終わりたいと思います。（拍手）